

# V 直近の2事業年度における財産の状況

## 1 計算書類等

### 1. 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	平成20年度末 (平成21年3月31日現在)	平成21年度末 (平成22年3月31日現在)	科 目	平成20年度末 (平成21年3月31日現在)	平成21年度末 (平成22年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
現金及び預貯金	1,354	1,349	保険契約準備金	354	1,237
預貯金	1,354	1,349	支払備金	50	302
有価証券	—	52	責任準備金	304	935
社債	—	52	その他負債	717	2,518
有形固定資産	25	271	再保険借	295	820
建物	12	15	未払法人税等	3	7
リース資産	—	222	未払金	260	514
その他の 有形固定資産	12	34	仮受金	157	640
無形固定資産	197	2,111	リース債務	—	534
ソフトウェア	64	1,611	その他の負債	—	0
リース資産	—	339	価格変動準備金	—	0
その他の 無形固定資産	132	160	繰延税金負債	59	0
その他資産	1,846	4,856	負債の部合計	1,131	3,757
再保険貸	98	450	<b>純資産の部</b>		
未収金	340	1,003	資本金	1,550	3,050
預託金	53	62	資本剰余金	1,450	2,950
仮払金	31	182	資本準備金	1,450	2,950
保険業法第113条 繰延資産	1,323	3,157	利益剰余金	△ 707	△ 1,118
その他の資産	0	0	その他利益剰余金	△ 707	△ 1,118
			繰越利益剰余金	△ 707	△ 1,118
資産の部合計	3,424	8,640	株主資本合計	2,292	4,881
			その他有価証券 評価差額金	—	1
			評価・換算差額等合計	—	1
			純資産の部合計	2,292	4,883
			負債及び 純資産の部合計	3,424	8,640

# V 直近の2事業年度における財産の状況

## (貸借対照表の注記)

01. その他有価証券のうち時価のあるものは、期末日の市場価格等による時価法によっております。  
なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価の算定は移動平均法によっております。
02. 有形固定資産の減価償却は、次の方法によっております。  
有形固定資産（リース資産を除く）・・・定率法  
リース資産・・・定額法
03. 無形固定資産の減価償却は、定額法によっております。  
なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
04. 価格変動準備金は、株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。
05. 消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっております。
06. 有形固定資産の減価償却累計額は48百万円であります。
07. 関係会社に対する金銭債権の総額は522百万円、金銭債務の総額は1,518百万円であります。
08. 繰延税金資産の総額は1,544百万円、繰延税金負債の総額は1,144百万円であります。  
また、繰延税金資産から評価性引当額として控除した額は400百万円であります。  
繰延税金資産の主な原因別の内訳は税務上の繰越欠損金1,487百万円であります。  
繰延税金負債の主な原因は保険業法第113条繰延資産1,143百万円であります。
09. 当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

### (1) 金融商品の状況に関する事項

資金運用については預貯金を中心に運用を行っております。有価証券は、その他有価証券の債券であり、発行体の信用リスク及び市場価格等の変動リスクに晒されております。未収金は、営業債権であり、信用リスクに晒されております。再保険貸及び再保険借は、再保険に伴う債権債務であります。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額	
① 預貯金	1,349	1,349	—	資産
② 有価証券				① 預貯金、③ 再保険貸、④ 未収金
その他有価証券	52	52	—	短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。
③ 再保険貸	450	450	—	② 有価証券
④ 未収金	1,003	1,003	—	時価については、期末日の市場価格等によっております。
資産計	2,855	2,855	—	負債
① 再保険借	820	820	—	① 再保険借
② リース債務	534	538	△ 4	短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。
負債計	1,354	1,359	△ 4	② リース債務

(注) 金融商品の時価の算定方法

10. (1) 支払備金の内訳は次のとおりであります。

支払備金（出再支払備金控除前、(口)に掲げる保険を除く）	992 百万円
同上に係る出再支払備金	694 百万円
差引（イ）	297 百万円
自動車損害賠償責任保険に係る支払備金（口）	4 百万円
計（イ+口）	302 百万円

(2) 責任準備金の内訳は次のとおりであります。

普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	2,853 百万円
同上に係る出再責任準備金	1,997 百万円
差引（イ）	855 百万円
その他の責任準備金（口）	79 百万円
計（イ+口）	935 百万円

11. 1株当たり純資産額は35,092円38銭であります。

算定上の基礎である純資産の部の合計額は4,883百万円、普通株式の期末株式数は139千株であります。

12. 保険業法第113条繰延資産の償却は定款の規定に基づき行っております。

13. 平成22年5月10日開催の取締役会において、保有契約件数の増加に応じた財務基盤の強化のため平成22年5月26日を払込期日として第三者割当増資により普通株式142,483株（発行総額5,000百万円、うち資本金組入額2,500百万円）を発行することを決議いたしました。

14. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# V 直近の2事業年度における財産の状況

## 2. 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	平成20年度	平成21年度
	(平成20年4月1日～平成21年3月31日)	(平成21年4月1日～平成22年3月31日)
経常収益	433	1,431
保険引受収益	428	1,428
正味収入保険料	428	1,428
積立保険料等運用益	—	0
資産運用収益	4	1
利息及び配当金収入	4	1
積立保険料等運用益振替	—	△ 0
その他経常収益	0	1
経常費用	598	1,900
保険引受費用	340	1,112
正味支払保険金	75	520
損害調査費	119	385
諸手数料及び集金費	△ 207	△ 676
支払備金繰入額	49	252
責任準備金繰入額	302	630
営業費及び一般管理費	1,399	2,603
その他経常費用	165	469
支払利息	—	7
保険業法第113条繰延資産償却費	165	451
株式交付費	—	11
その他の経常費用	—	0
繰延資産繰戻金繰入額	△ 1,305	△ 2,285
経常損失	165	468
特別損失	26	0
固定資産処分損	3	—
減損損失	23	0
価格変動準備金繰入額	—	0
税引前当期純損失	192	468
法人税及び住民税	1	1
法人税等調整額	45	△ 59
法人税等合計	46	△ 58
当期純損失	238	410

## (損益計算書の注記)

01. 関係会社との取引による収益の総額は△3,299百万円、費用の総額は444百万円であります。

02. (1) 正味収入保険料の内訳は、次のとおりであります。

収入保険料	4,729 百万円
支払再保険料	3,301 百万円
差引	1,428 百万円

(2) 正味支払保険金の内訳は、次のとおりであります。

支払保険金	1,719 百万円
回収再保険金	1,199 百万円
差引	520 百万円

(3) 諸手数料及び集金費の内訳は、次のとおりであります。

支払諸手数料	161 百万円
出再保険手数料	838 百万円
差引	△ 676 百万円

(4) 支払備金繰入額の内訳は次のとおりであります。

支払備金繰入額 (出再支払備金控除前、(口)に掲げる保険を除く)	829 百万円
同上に係る出再支払備金繰入額	580 百万円
差引(イ)	248 百万円
自動車損害賠償責任保険に係る 支払備金繰入額(ロ)	3 百万円
計(イ) + (ロ)	252 百万円

(5) 責任準備金繰入額の内訳は次のとおりであります。

普通責任準備金繰入額 (出再責任準備金控除前)	1,929 百万円
同上に係る出再責任準備金繰入額	1,350 百万円
差引(イ)	578 百万円
その他の責任準備金繰入額(ロ)	52 百万円
計(イ) + (ロ)	630 百万円

(6) 利息及び配当金収入の内訳は次のとおりであります。

預貯金利息	0 百万円
有価証券利息・配当金	1 百万円
計	1 百万円

03. 1株当たり当期純損失の額は4,004円24銭であります。算定上の基礎である当期純損失は410百万円でありその全額が普通株式に係るものであります。また、普通株式の期中平均株式数は102千株であります。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益の額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

04. 関連当事者との取引は以下のとおりであります。

(1) 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引 金額	科目	期末 残高
親会社	SBIホールディングス 株式会社	(被所有) 直接 64.4%	役員・従業員の出向元 事業所の貸主	広告宣伝費等	435	未払金	71
その他の 関係会社	あいおい損害保険 株式会社	(被所有) 直接 33.4%	従業員の出向元 事業所の貸主 再保険取引	出再保険料	3,299	再保険借	1,099
				出再保険手数料	838	再保険借	△ 279
				出再保険金	1,199	再保険貸	450

(2) 子法人等及び関連法人等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引 金額	科目	期末 残高
その他の 関係会社	あいおい損保 CSデスク株式会社	なし	業務委託先	業務委託費	525	未払金	84
				ソフトウェアの購入	1,102	—	—
	SBIリース株式会社	なし	リース取引先	機械設備等の リース	670	リース資産	561
						リース債務	534
				機械設備等の売却	565	—	—

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- ・不動産賃借については、市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定された家主に支払う賃借料及び敷金金額を基礎として、当社使用割合に応じて決定しております。
- ・サービスの提供及び資産の購入については、市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定しております。
- ・機械設備等の売却価格は帳簿価格によっております。

05. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# V 直近の2事業年度における財産の状況

## 3. キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	年 度	平成 20 年度	平成 21 年度
		(平成20年4月1日～平成21年3月31日)	(平成21年4月1日～平成22年3月31日)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税引前当期純利益 (△は損失)		△ 192	△ 468
減価償却費		26	151
減損損失		23	0
株式交付費		—	11
保険業法第 113 条繰延資産の増減額 (△は増加)		△ 1,140	△ 1,834
支払備金の増減額 (△は減少)		49	252
責任準備金の増減額 (△は減少)		302	630
価格変動準備金の増減額 (△は減少)		—	0
利息及び配当金収入		△ 4	△ 1
支払利息		—	7
有形固定資産関係損益 (△は益)		3	—
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)		△ 440	△ 1,165
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)		569	1,236
	小 計	△ 801	△ 1,181
利息及び配当金の受取額		4	1
利息の支払額		—	△ 7
法人税等の支払額		0	△ 1
営業活動によるキャッシュ・フロー		△ 797	△ 1,188
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有価証券の取得による支出		—	△ 50
資産運用活動計		—	△ 50
(営業活動及び資産運用活動計)		△ 797	(△ 1,238)
有形固定資産の取得による支出		△ 10	△ 76
無形固定資産の取得による支出		△ 146	△ 1,645
その他		△ 19	△ 9
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 176	△ 1,781
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
株式の発行による収入		—	2,988
リース債務の返済による支出		—	△ 25
財務活動によるキャッシュ・フロー		—	2,963
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>			
		—	—
<b>V 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>			
		△ 974	△ 5
<b>VI 現金及び現金同等物期首残高</b>			
		2,328	1,354
<b>VII 現金及び現金同等物期末残高</b>			
		1,354	1,349

## (キャッシュ・フロー計算書の注記)

### 01. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	(平成22年3月31日現在)
現金及び預貯金	1,349百万円
現金及び現金同等物	1,349百万円

### 02. 重要な非資金取引の内容

当事業年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ591百万円、559百万円であります。

### 03. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 4. 損失処理の状況及び諸指標

(単位：百万円)

区分	年度	平成20年度	平成21年度
当期末処理損失		238	410
損失処理額		—	—
次期繰越損失		238	410
利益金に関する 諸指標	一株当たり配当額	—円—銭	—円—銭
	一株当たり当期純損失	3,976円75銭	4,004円24銭
	配当性向	—%	—%

(注) 1株当たり当期純損失は [当期純損失 ÷ 期中平均株数] により算出しております。

# V 直近の2事業年度における財産の状況

## 5. 株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	金 額		科 目	金 額	
	平成 20 年度	平成 21 年度		平成 20 年度	平成 21 年度
<b>株主資本</b>			<b>株主資本合計</b>		
<b>資本金</b>			前期末残高	2,530	2,292
前期末残高	1,550	1,550	当期変動額		
当期変動額			新株の発行	—	3,000
新株の発行	—	1,500	当期純損失	238	410
当期変動額合計	—	1,500	当期変動額合計	△ 238	2,589
当期末残高	1,550	3,050	当期末残高	2,292	4,881
<b>資本剰余金</b>			<b>評価・換算差額等</b>		
<b>資本準備金</b>			<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	1,450	1,450	前期末残高	—	—
当期変動額			当期変動額		
新株の発行	—	1,500	株主資本以外の項目の		
当期変動額合計	—	1,500	当期変動額（純額）	—	1
当期末残高	1,450	2,950	当期変動額合計	—	1
<b>資本剰余金合計</b>			当期末残高	—	1
前期末残高	1,450	1,450	<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期変動額			前期末残高	—	—
新株の発行	—	1,500	当期変動額		
当期変動額合計	—	1,500	株主資本以外の項目の		
当期末残高	1,450	2,950	当期変動額（純額）	—	1
<b>利益剰余金</b>			当期変動額合計	—	1
<b>その他利益剰余金</b>			当期末残高	—	1
<b>繰越利益剰余金</b>			<b>純資産合計</b>		
前期末残高	△ 469	△ 707	前期末残高	2,530	2,292
当期変動額			当期変動額		
当期純損失	238	410	新株の発行	—	3,000
当期変動額合計	△ 238	△ 410	当期純損失	238	410
当期末残高	△ 707	△ 1,118	株主資本以外の項目の		
<b>利益剰余金合計</b>			当期変動額（純額）	—	1
前期末残高	△ 469	△ 707	当期変動額合計	△ 238	2,591
当期変動額			<b>当期末残高</b>	2,292	4,883
当期純損失	238	410			
当期変動額合計	△ 238	△ 410			
当期末残高	△ 707	△ 1,118			

右表へ続く▶

### (株主資本等変動計算書の注記)

#### 01. 発行済株式の種類及び総数

(単位：千株)

種類	前期末株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	60	79	—	139

#### 02. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 2 リスク管理債権

1. 破綻先債権	該当ありません。
2. 延滞債権	該当ありません。
3. 3ヵ月以上延滞債権	該当ありません。
4. 貸付条件緩和債権	該当ありません。

## 3 債務者区分に基づいて区分された債権

1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権	該当ありません。
2. 危険債権	該当ありません。
3. 要管理債権	該当ありません。
4. 正常債権	該当ありません。

## 4 ソルベンシー・マージン比率

(単位:百万円)

項目	平成20年度末	平成21年度末
(A)ソルベンシー・マージン総額	982	1,784
資本金又は基金等 (純資産の部の合計額から社外流出予定額、 評価・換算差額等及び繰延資産を控除した額)	969	1,723
価格変動準備金	—	0
危険準備金	—	—
異常危険準備金	13	58
一般貸倒引当金	—	—
その他有価証券の評価差額×90% (評価損の場合は100%)	—	2
土地の含み損益×85% (評価損の場合は100%)	—	—
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
意図的保有による控除額	—	—
その他	—	—
(B)リスクの合計額 $[\sqrt{\{(R_1+R_6)^2+(R_2+R_3)^2\}}+R_4+R_5]$	33	102
一般保険リスク (R <sub>1</sub> )	17	66
第三分野保険の保険リスク (R <sub>6</sub> )	—	—
予定利率リスク (R <sub>2</sub> )	—	—
資産運用リスク (R <sub>3</sub> )	24	53
経営管理リスク (R <sub>4</sub> )	1	3
巨大災害リスク (R <sub>5</sub> )	2	13
(C)ソルベンシー・マージン比率 $[(A)/\{(B)\times 1/2\}]\times 100$	5,893.0%	3,478.8%

(注)上記の金額及び数値は、保険業法施行規則第86条及び第87条並びに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

# V 直近の2事業年度における財産の状況

## 【ソルベンシー・マージン比率】

・損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立型保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。

・この「通常の予測を超える危険」に対して「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたのが、「ソルベンシー・マージン比率」です。

## 【通常の予測を超える危険】 次の①～⑤の危険の総額

- ① 保険引受上の危険（一般保険リスク、第三分野保険の保険リスク）  
：保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより発生し得る危険（巨大災害に係る危険を除く）
- ② 予定利率上の危険（予定利率リスク）  
：積立型保険について、実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険
- ③ 資産運用上の危険（資産運用リスク）  
：保有する有価証券等の資産の価格が通常の予測を超えて変動することにより発生し得る危険等
- ④ 経営管理上の危険（経営管理リスク）  
：業務の運営上通常の予測を超えて発生し得る危険で上記①～③および⑤以外のもの
- ⑤ 巨大災害に係る危険（巨大災害リスク）  
：通常の予測を超える巨大災害（関東大震災や伊勢湾台風相当）により発生し得る危険

## 【損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力】

損害保険会社の純資産（社外流出予定額等を除く）、諸準備金（価格変動準備金・異常危険準備金等）、土地の含み益の一部等の総額

・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用する客観的な判断指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。

## 5 時価情報等

### 1. 有価証券

① 売買目的有価証券 該当ありません。

② 満期保有目的の債権で時価のあるもの 該当ありません。

### ③ その他有価証券で時価のあるもの

<平成21年度>

(単位:百万円)

区分	年度	平成21年度末		
		取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	公社債	50	52	2
	株式	—	—	—
	外国証券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	公社債	—	—	—
	株式	—	—	—
	外国証券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		50	52	2

<平成 20 年度>

(単位:百万円)

区分	年度	平成20年度末		
		取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	公社債	—	—	—
	株式	—	—	—
	外国証券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	公社債	—	—	—
	株式	—	—	—
	外国証券	—	—	—
	その他	—	—	—
小計	—	—	—	
合計		—	—	—

④ 時価のない有価証券の主な内容及び貸借対照表計上額

該当ありません。

2. 金銭の信託

該当ありません。

3. デリバティブ取引（有価証券関連デリバティブ取引に該当するものを除く。）

該当ありません。

4. 保険業法に規定する金融等のデリバティブ取引

該当ありません。

5. 先物外国為替取引

該当ありません。

6. 有価証券関連デリバティブ取引（(7)に掲げるものを除く。）

該当ありません。

7. 金融商品取引法に規定する有価証券先物取引もしくは有価証券先渡取引、  
外国金融商品市場における有価証券先物取引と類似の取引

該当ありません。

## 6 監査法人による監査の状況

当社は、「会社法」第436条第2項第1号の規定に基づき、SBI損害保険株式会社の貸借対照表、損益計算書、および株主資本等変動計算書ならびにその附属明細書について、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

## 7 当社及びその子会社等の概況

該当ありません。

## 確 認 書

平成 22 年 5 月 24 日

SBI 損害保険株式会社  
代表取締役社長  
城戸 博雅

私は、当社の平成 21 年度の財務諸表に記載された事項が適正であり、当該財務諸表作成に係る内部監査が有効であることを以下のとおり確認しております。

### 記

当社は、財務諸表の作成に当たり、体制の構築と、有効に機能する環境を整備しており、以下のとおり適正に機能していることを確認いたしました。

- ① 財務諸表の作成に当たって、業務分担と所管部署が明確化されており、各所管部署において適切に業務を遂行する体制が整備されていること。
- ② 内部監査部門により、各所管部署における業務を遂行する体制の適切性・有効性が検証され、重要な事項については、経営者へ報告される体制が整備されていること。
- ③ 会計監査人の監査を受け、監査対象となる会計部分の記載内容に関し重要な指摘事項がないこと。
- ④ 当社の重要な情報が、取締役会等へ適切に付議・報告されていること。

以上

# 損害保険用語の解説

## 主な損害保険用語の解説(五十音順)

### あ行

**【異常危険準備金】**

異常災害による損害のてん補に充てるために保険会社が積み立てる準備金のことをいいます。

**【逸失利益】**

事故などにより被保険者が死亡または後遺障害により働けなくなった結果、その事故がなければ得られたであろう経済的利益のことです。

**【受再】**

ほかの保険会社からの「再保険」を引き受けることをいいます。

### か行

**【価格変動準備金】**

保有する株式・債券などの価格変動による損失に備えるために、保険会社が積み立てる準備金のことをいいます。

**【危険準備金】**

保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて保険会社が積み立てる準備金をいいます。

**【記名被保険者】**

自動車保険において、ご契約のお車を主に運転する方で、契約時に記名被保険者として指定された方を指します。

**【クーリングオフ】**

契約の申し込み後であっても、契約の申し込みの撤回または契約の解除ができる制度のことです。保険期間が1年以内の保険契約はクーリングオフ対象外となります。なお、弊社において1年超の保険は取扱がありません。

**【契約者配当金】**

積立保険において積立部分の実際の運用利回りが予定利率を超えた場合、満期時に契約者に支払われる金額です。なお、弊社において積立保険は取扱がありません。

**【契約者配当準備金】**

積立保険の契約者配当金を満期時に支払うために、保険会社が積み立てる準備金のことをいいます。なお、弊社において積立保険は取扱がありません。

**【後遺障害】**

身体の一部を失いまたはその機能に重大な障害を永久に残した状態をいいます。

**【交通事故証明書】**

警察に事故の届けをしている場合に自動車安全運転センターに申請すると交付される書類で、事故の日時・場所、事故の当事者の氏名や車両、事故類型が記載されています。

# 損害保険用語の解説

## さ行

### 【再保険】

保険会社が引き受けた保険契約に基づく保険金支払責任のすべて、あるいは一部分をほかの保険会社に転嫁することをいいます。

### 【再保険プール】

保険責任の分散・平準化を効率的に図るために共同で行なう再保険のことをいいます。プールに参加した保険会社は、保険契約をプールへ出直し、かつ、所定の配分割合分を受再していることとなります。

### 【事業費】

保険会社の事業上の経費で、損害保険会計では、損害調査費、営業費及び一般管理費、諸手数料及び集金費を総称していいます。

### 【自賠償保険】

自動車損害賠償保障法によって自動車を使用する際に加入が義務づけられている保険で、人身事故における被害者救済を目的とした強制保険です。なお、正式名称は自動車損害賠償責任保険です。

### 【支払備金】

既に発生した保険事故について、その保険金の支払いのために積み立てる準備金のことをいいます。

### 【出再】

ほかの保険会社に「再保険」を引き受けてもらうことをいいます。

### 【責任準備金】

将来生じうる保険金の支払いなどの保険契約上の保険会社が負う債務に対して、あらかじめ積み立てておく準備金のことをいいます。

### 【損害保険料率算出機構】

「損害保険料率算出団体に関する法律」に基づく料率算定団体です。自動車保険、火災保険および傷害保険等の参考純率ならびに自賠償保険および地震保険の基準料率の算出を主要な業務としています。

## た行

### 【第三分野保険】

第一分野（生命保険）、第二分野（損害保険）のいずれにも属さない医療保険や介護保険などを指します。なお、弊社において第三分野保険は取扱がありません。

### 【大数の法則】

サイコロを振って1の目が出る確率は、振る回数を増やせば増やすほど6分の1に近づいていきます。すなわち、ある独立的に起こる事象について、それが大量に観察されればある事象の発生する確率が一定値に近づくといいことができ、これを大数の法則といいます。個々人にとっては偶発的な事故であっても、大量に観察することによってその発生率を全体として予測できるということになります。保険料算出の基礎数値の一つである保険事故の発生率は、大数の法則に立脚した統計的確率にほかなりません。

### 【同居の子供の年齢条件に関する特約】

弊社の自動車保険における特約で、年齢条件とは別に同居の子供の年齢条件を低く定めることができる特約です。

### 【特約再保険】

あらかじめ出再する条件を定めておき、その条件を満たす保険契約をすべて出再する形態の再保険のことをいいます。

## な行

### 【ノンフリート等級】

保険の対象となる自動車の所有台数が9台以下の保険契約に対して適用される割増・割引率の等級（1～20等級）のことをいいます。

## は行

---

### 【払戻積立金】

積立保険および満期時に一定の条件で保険料を返還する保険において満期返れい金または保険料の払い戻し等に備えるために、保険会社が積み立てる準備金のことをいいます。なお、弊社においてこれに該当する保険は取扱がありません。

### 【普通責任準備金】

一般の保険において決算時から保険終期までの期間の保険金支払いに備えるために、保険会社が積み立てる準備金のことをいいます。

### 【保険期間】

補償の対象となる期間のことをいいます。この期間内に保険事故が発生した場合にのみ保険会社は保険金を支払います。ただし、保険期間中であっても保険料が支払われていないときに生じた損害または傷害については保険金をお支払いしません。

### 【保険業法】

保険会社の業務の健全かつ適切な運営および保険募集の公正を確保することにより、保険契約者等の保護を図り、生活の安定および経済の健全な発展に資することを目的とする法律です。

### 【保険金】

保険事故による損害または傷害に対して保険会社が被保険者等に支払うお金のことをいいます。

### 【保険金額】

契約金額のことをいいます。保険事故が発生した場合に保険会社が支払う保険金の限度額です。その金額は、保険契約者と保険会社との契約によって定められます。

### 【保険契約者保護機構】

損害保険会社が経営破綻した場合に、破綻損害保険会社の保険契約者などを保護し、保険業に対する信頼性を維持することを目的として、保険業法に基づき設立された法人です。ここには、日本国内で損害保険業を営む免許を受けた損害保険会社がすべて加入しており、加入損害保険会社の補償対象契約の保険契約者などが補償の対象となります。

### 【保険契約準備金】

保険契約に基づく保険金の支払責任を果たすために、保険会社が積み立てる準備金のことをいい、支払備金、責任準備金があります。

### 【保険料】

被保険者の被る危険を保険会社が負担するための対価として、保険契約者が保険会社に支払うお金のことをいいます。

### 【保険料積立金】

保険期間が長期の第三分野保険および積立保険において将来の保険金等の支払いに備えるために、保険会社が積み立てる準備金のことをいいます。なお、弊社において第三分野保険および積立保険は取扱がありません。

## ま行

---

### 【元受契約】

保険会社が保険契約者から直接引き受けた保険契約のことをいいます。

### 【元受保険料】

元受契約によって領収する保険料のことをいいます。出再する前の保険料であることを明示する場合に用いる用語です。



SBI損害保険 株式会社

東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー18F 〒106-6018

TEL 03-6229-0060 (代表)

[www.sbisonpo.co.jp](http://www.sbisonpo.co.jp)